

# 今こそ盛岡を 元気にするために

米国における金融危機の連鎖が世界に拡がり、株安・円高・雇用不安と負の連鎖が続く中、不安定な政局もあり、地方経済も予断を許さない状況の中で新年を迎えた。2009年の年頭にあたり、なんとか光明を見つけ出し、盛岡を元気にするための思いを2つのテーマに分けて、部長さん方と会頭で語り合っていたいだいた。



## 第1部座談会

会頭 永野勝美 (㈱岩手銀行代表取締役会長)  
卸売・小売部会部会長 村田欣也 (ムラタ㈱代表取締役社長)  
情報・サービス部会部会長 阿部正樹 (㈱IBC岩手放送代表取締役社長)  
金融理財部会部会長 矢吹悦延 (盛岡信用金庫理事長)  
観光・料飲・サービス部会副部会長 太田代洋一郎 (㈱ホテル小田島専務取締役)  
司会 小原富彦専務理事

## 第2部座談会

会頭 永野勝美 (㈱岩手銀行代表取締役会長)  
工業部会部会長 吉田幸一 (川口印刷工業㈱代表取締役会長)  
建設部会部会長 伊藤篤宏 (北水建設工業㈱代表取締役社長)  
交通運輸部会副部会長 大橋義光 (北日本建機工業㈱代表取締役)  
司会 小原富彦専務理事

## 第1部

『人が集まる  
まちづくり』

司会：昨年を振り返りながら業界や部会活動、ご自身の今年の抱負や期待をお聞かせください。

村田：ガソリンを例にすると一昨年从高騰を続け、夏には日本一安いと言われる盛岡でさえ183円まで達し、12月には103円まで下がりました。全国の消費量は30%ダウンし、若干戻したものの消費が大きく減退しました。今年は、消費意欲が高まる年になることを期待しています。

太田代：『どんど晴れ』、平泉の世界文化遺産登録に向けて明るかった一昨年が一転し、昨年は2度にわたる大規模地震による風評被害や平泉の登録延期、さらには景気の落ち込みで、観光客が減少しました。加えて、ホテル業界は中央資本の進出もあって競争が激化しました。今年は、明るい話題や兆しを見つけて、もっと「盛岡」を売り出すよう頑張りたいと思っています。



村田部会長

阿部：2011年にデジタル放送となるため中継局を建設中ですが、広い県土をカバーするには限界があり、中山間地域は電波が届きにくくなる。私共の役割としては、地方の声を全国に発信することだと考えます。部会では、盛岡に来てもらえる交流人口を増やそうと取り組んでいます。関西を始め、全国的には「盛岡」の知名度はまだまだ。青森の新幹線延伸などもプラスの素材と考えて、誘客を図りたいと思っています。

矢吹：部会では昨年から中小・小規模企業への融資制度の見直しの調査・研究を進めており、景気が落ち込んでいる今こそ、中小零細企業の資金流動性を高めるために、会員の声を早急にまとめたいたいと考えています。私共、盛岡信金では全国7700余の同業に盛岡紹介の発信チラシを配りましたが、結構反応があり、今年は盛岡に来てもらえるようさらに工夫して働きかけたいと思います。

永野：皆さんのリードで各部会が様々な検討をされておられることに感謝します。今年は、金融という面倒な要因があることから、懸念の多い1年となると思います。盛岡には伝統という底知れない力があります。創業百年以上の会員企業の表彰を始めて3回目となり、6日の新年交賀会で表彰させていただくが、本年から明治の創業者が表彰されます。様々な苦難を乗り越えてきた歴史と姿を、同じ会議所の会員として誇りに思いますし、見習いたく思います。



阿部部会長

司会…「人が集まるまちづくり」という観点から、中心市街地の活性化やまちなか観光についてのお考えをお聞かせください。

村田…駐車場の整備や一方通行等の交通の課題に取り組みなければならぬと思います。石割桜が開花している時など県では議会棟の前を観光バスに開放していますが、もっと広く解放するなどの手段も必要ではないでしょうか。また盛岡全体の活性化を考えると、第3次産業に特化し、いびつになっている産業構造を改善していくことが重要だと考えています。阿部…街はその時代を反映しています。絶対に必要なのは、こういう街にしよう、というしつかりとしたコンセプトです。鉾屋町の町家の運動に参画してま



矢吹部会長



太田代副部会長

が、町民文化の暮らしが反映した街づくりを目指し、たとえば芸術家が空き家に住み、朝市などの下町の文化に触れ合うなどのモデルをつくりたいです。盛岡は、やはり中津川の散策が素晴らしいポイントです。酒蔵とか文化遺産とかとミックスさせてしつかりルート化するべきでしょう。また、自転車を利用するロードマップも良いのではないですか。歴史と情緒に合った街づくりを目指してもらいたいですね。

矢吹…経済力は人の数に比例します。つまり岩手人を増やすことですね。そのため、企業の誘致も大切なことであり、観光の誘客と共通する「誘」にこだわって、しつかりと取り組みたいものです。盛岡にお出でになった方から印象を伺う



永野会頭

と非常に褒めていただけの反面、同じ北東北の青森や秋田と比較して案内板が少ないと言われます。今の旅行客は自力で街を探索して楽しむ傾向が強いので、案内板をもっと作って、盛岡は迷わない街とか、道しるべが多い街、というニックネームをつけられるようになると思いますね。(笑)

太田代…個人的には500m毎に道しるべがあったら歩きやすいし、観光客に優しい街になると思います。また建築物と違って自然である「山」や「川」は絶対に動かせない宝物です。コンセプトをしつかりして自然をいかに良く見せるかだと思います。

永野…「コンセプト」の話が出ましたが、私は、賢治・啄木・中津川など、盛岡は『抒情性』に優れた街だと思っています。もっと盛岡市民や企業みんなで抒情性を大切にという感覚を持つてもらい、盛岡を大いに売り出したいと考えています。

やはり盛岡を歩いたり、自転車で愉しんでもらう手段も必要でしょう。たとえば、盛岡駅から原敬記念館や先人記念館、美術館などを廻るルートは自転車で回遊が最も適しています。観光客に無料で、どこに乗り捨ててもらっても構わない黄色のペイントを塗った自転車で回遊してもらい、乗り捨てた自転車を市民がボランティアで元に戻すといった事業も考えられます。

司会…会議所としても地産地消に取り組んでいます。さらに推進していくため

には、どんなことが考えられるでしょう。村田…休日になると郊外の産直で買い物をする人が多い。中心部にお客様を引っ張ってくる工夫が必要ですね。

阿部…食の安全・安心が話題になれば産直が流行ります。消費者がセグメントすることは当たり前ですが、八戸の八食センターなどは、県外からも観光客を呼んでいる大変な誘客施設となっておりますね。

太田代…三陸の海の幸や山の幸など豊富な岩手県ですし、盛岡にも欲しいですね。

阿部…地産地消に関しては、学校給食や病院等大きな施設が経済合理性だけで地元産を使わない現状が課題だと思います。地元産を使うというしつかりとしたコンセプトをもってシステムを整えてほしいですね。

永野…この経済情勢だからこそ地元のものを買うという発想が必要だと思います。昨年は、風評被害対策のため日商の常議員会を10月に盛岡で開催してもらい、地元産の料理を提供して好評をいただきました。地場のモノを地場で調達して消費する地産地消をスローガン倒れにしないよう、昨年11月から実施している地元食材の活用を推進する推奨の店や新年会交賀会の料理のように常に具体的に実践していきたいですね。会議所活動として、こういった先鞭性を常に意識したいと考えています。地産地消の活動が農業の商業化、いわゆる農商工連携につな

いと考えています。地産地消の活動が農業の商業化、いわゆる農商工連携につな

がっていく原点になると思います。

司会…今年の商工会議所活動に望むことを一言ずつお願いいたします。

村田…中心市街地活性化事業の進捗状況を公開してほしいと思います。

太田代…3年連続実施した、盛岡さんさ踊りの4日間開催の定着化をお願いしたいです。

阿部…会員を増やすためにも会議所の活動が良く見えて、分かりやすく、そして目に見えるサービスの形で会員に返してあげるといふ努力を進めていただきたいと思ひます。

矢吹…中心市街地は、高齢者をターゲットにして欲しいし、中心地に定住したいという人を増やしたい。それには、身の回り品が手に入りやすいとか生活に優しい街であることが必要です。都市としての機能性もさることながら、心の通った街を目指して欲しいですね。

永野…中心市街地活性化対策をはじめ、盛岡を100年の大計で考えて地域づくりに取り組みたいですね。中心市街地としての「品格」が大切であるし、都市景観条例など大切なものを守りながら、人



小原専務理事

に優しい街としての都市居住も進めていきたいと思ひます。今年も部会等で活発な意見交換をお願いし、クリエイティブな事業につなげていきたいと思ひます。皆さんのご活躍を期待しております。

## 第2部

### 『地域経済の活性化に向けて』

司会…昨年を振り返りながら業界や部会活動、ご自身の今年の抱負や期待をお聞かせください。

吉田…部会には様々な業種が入っていますが皆「大変だ！」ですよ(笑)。今年も厳しい経営環境が続きそうですが、経営者が暗いと会社全体に影響を与えるため、「何とかなるぞ！」を前面に出して1年を乗り切りたいと思ひます。

伊藤…公共工事が平成13年に比べて4割ちよつとという状況です。部会では、宮城県沖地震の発生が予想される中で、『災害に強い街づくり』を20年度のテーマに据えて活動しています。耐震相談会



吉田部会長



伊藤部会長

なども考えています。

大橋…原油高の高騰は、運輸業界を直撃し、トラック保有台数は約740台と前年比77・3%となりました。世界的な景気の後退は、自動車産業に大変な打撃を与え、生産調整や人員削減が始まり、県内でも2千人が削減されました。業界では、更に厳しさが増すと予想しています。が、こういう時こそ何とかチャンスに変えることは出来ないかと考えているところです。会社の今年のキーワードに敢えて『挑戦』を掲げました。技術と信頼を活かす場を戦略として積み上げ、出来る部分に積極的に投資し、厳しさの打開を図る計画です。

永野…建設部会が取り組んでいる耐震性の問題は、2度の大規模地震を経験しており、極めて重要なことだと思ひます。司会…地域や企業の活性化のためにどのようなことが必要だと思ひますか。吉田…印刷業を例にすれば、個人・企業のIT化によって簡単な印刷は自分達でやるようになり、市場は成熟化しています。当社では、印刷業から情報産業化に向かって取り組みを始め、ホームページ

に「岩手の暮らしアップサイト」を作り、岩手ブランドを発信しています。もちろん本業でも、より良いモノ、きれいなモノ、お客様のニーズにあったモノを納めることが受注を増やすことだと考えて取り組んでいます。

伊藤…企業誘致や工場の誘致もマーケットの開拓につながります。建設業から捉えた工業団地整備等の建設手法などを研究し、工業部会と連携して積極的に取り組みたい課題です。

大橋…従業員、地域、会社の役割などをきちんと分析して、見直しを行い、活路を見出し、全社員一丸となって取り組んでいくことが必要だと思ひています。

司会…第3次産業に特化している盛岡についてどう思ひますか。

吉田…1次、2次、3次産業のバランスが取れていることが当然必要です。京都は歴史と文化の都市としてのイメージが前面に出ています。実は日本を代表する産業都市です。盛岡の産業は醸造、豆腐等の食品製造業が中心で、大きな飛躍を期待できるものはない。だからこそ、積極的な企業誘致が必要でしょう。玉山や西根地区に誘致すれば、雇用が増大し、消費などの波及効果も大きく、さらに建設業の支援にも結びつきます。雇用は最大の地域貢献であり地域を活性化させます。地域に必要な社会資本はつくるべきであり、公共事業は有効な地域活性化策です。地元企業に発注して好循環を生み出したいものです。



大橋副会長

伊藤・産業のバランスは経済のバランス

につながる。1次・2次の発達は地域を活性化させるでしょう。永野会頭は地産地消を推進し、農商工連携に積極的に取り組んでおられますが、農業にも優れた会社が出て、人材が集まるようなシステムとなるよう望んでいます。

永野・農商工連携の話が出たので、ちょっと申し上げたい。国も昨年から随分と農商工連携を言っていますが、私が農商工連携を取り上げたのは、農業に産業資本の参入が認められ、20ヘクタール以上の規模の農業展開を会社として経営できるようにになったことが起点です。これまでの農家が作物を生産し、農協が集めて売る方式から株式会社経営として成り立つように、産業資本がお金を出して集約



永野会頭

化・大規模化し、効率化して売れる農産物を生産する。農業も財務諸表で商売すべきです。県土が広い岩手県ですし、岩大農学部もあります。優れた会社が出来れば、大卒の地元定着率も上がり、これまでの農業と差別化された新しい主要産業が育つ可能性はあります。

をチャンスにして、新しい、色んなモノを発想して取り組んでもらいたいと願います。ピンチをくぐり抜けた会社とその社員は大いに成長すると思います。吉田・財源がないとはいえ、地域の活性化のために必要なモノは作るべきです。地域の企業に発注すれば好循環を生み出します。低価格であればいいという入札・発注では好循環は生まれません。

吉田・不況型の倒産が増えていきます。仕事を増やすことが重要であり、官公庁の地元業者への積極的な発注を働きかけてもらいたい。また、会員に対して、きめの細かい情報提供、アドバイス、支援をお願いします。

伊藤・建設業を例にすると仕事が続いてないためにいわゆる「匠」が減少しています。仕事がある時だけ手間で雇うのでは人材は育ちません。工法が発達し、技がなくても建てられますが、アフターである事故や除雪などの処理は地元業者に頼ることとなります。一関の復旧活動は優秀な技術者がいたからこそですが、業界として力が発揮できない状況になってきています。やはり、地元発注をお願いしたいですね。

永野・商工会議所として、会員が仕事をやりやすいようにバッググラントを創ることが必要です。私はバンカーですから、お金の流通を例にとると、日銀券の発行など県内に入ったお金が留まる期間が短くなっています。県内に長く留まっていた方が良い訳で、外に流れているお金を出来るだけ留めるようにし、地場のものは地場で購入するという流れが大切でしょう。商流はまさにバッググラ

伊藤・盛南地区・盛岡駅西口地区で大きな空地が残っています。そのままにしておくのはもったいない。何とか賃貸など利用しやすい形をつくってもらえば運用するアイデアも出てくると思いますよ。

永野・昨年の地震を経験して痛感したのは、地元の建設業の大切さであり、災害復旧工事に日夜努力されているのは地元建設業の方々です。郷土を守るという考え方に立つと、地元の建設業へのお手伝い、支援は大切なことだと思います。運輸業は原油の高騰で大変な打撃を受け、景気が後退し、荷物が減少するという二重の厳しい状況が続いている。大型の輸送だけでなく、これからは高齢社会の時代でもあり、商店街との連携により荷物配送など、新しいサービス分野も出てくると思います。経営者には、ピンチ

を一言ずつお願いいたします。

永野・信用保証協会の理事を会議所の代表として務めているが、政府の緊急保証制度の活用については、適切な対応をお願いしています。セーフティネットをきちんと機能させることが今一番大切です。そして地域を支える企業に発注することも大切。地産地消は飲食店ばかりではなく、商いの流れ、商流を見直すことだと思います。県や市などの公の機関も企業も個人も地元の大切さに気づいて実行しなければなりません。皆様から頂戴する活発な意見をまとめて、より良い盛岡の発展につながるように取り組みしていきますので、今年も頑張っていきたいと思います。

取材／「SANS A」企画編集委員会

取材／「SANS A」企画編集委員会

取材／「SANS A」企画編集委員会